

弦楽合奏団
エテルニータ

弦楽合奏団エテルニータ第20回コンサート

2026年 6月28日 [日] 14:00 開演
(13:30 開場)

ライトキューブ宇都宮 3F 中ホール

ごあいさつ

本日はご多用中にもかかわらず「弦楽合奏団エテルニータ第20回コンサート」にお越しいただき誠にありがとうございます。

当団は2003年に結成コンサートを開催し、本年で23年、20回目のコンサートとなります。ここまで続けることができたのも、ひとえに当団の活動にご理解、ご支援をいただいております関係各位、お客様方の励ましのお陰と心より感謝申し上げます。

さて、今回のプログラムでは、20回目の節目のコンサートということもあり、普段なかなかできない管楽器も交えての曲目にチャレンジいたしました。国内外で活躍されているチェリストの増山頌子氏をソリストに迎え、ハイドンの「チェロ協奏曲 第2番 ニ長調」を、そしてモーツァルトの「交響曲 第29番 イ長調」を演奏いたします。

また、本団に縁が深く、栃木県内外で数多くの作品が演奏されている山田栄二氏の石仏三部作の1曲である「月明り千地蔵～弦楽合奏のための」も、2016年の第13回コンサート以来の演奏となります。

今後もさらなる技術と音楽性、アンサンブルの向上を目指して精進して参りますので、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



PROGRAM



ヴィヴァルディ：弦楽のための協奏曲 ト短調 Rv.156

A.Vivaldi: Concerto in Sol minore per Archi e Cembalo Rv 156

ハイドン：チェロ協奏曲 第2番 ニ長調 Op.101 Hob.VII b Nr2

J.Haydn: Concerto in D major for Violoncello and Orchestra Hob.VIIb:2

チェロ／増山 頌子

*** 休憩 ***

山田栄二：月明かり千地蔵～弦楽合奏のための

モーツァルト：交響曲 第29番 イ長調 Kv.201(186a)

W.A.Mozart: Symphony No.29 in A major Kv.201(186a)

ヴィヴァルディ:

弦楽のための協奏曲 ト短調 Rv.156

18世紀イタリアを代表する作曲家、アントニオ・ヴィヴァルディによる弦楽合奏のための作品です。全3楽章からなり、短調ならではの引き締まった響きと、生き生きとしたリズムが魅力です。

第1楽章では力強く緊張感のある音楽が展開され、第2楽章では一転して穏やかで美しい旋律が心を和ませます。そして第3楽章では、躍動感あふれる音楽が一気に駆け抜け、情熱的な締めくくりを迎えます。

協奏曲という名称でありながら独奏者を置かず、弦楽器全体が一体となって音楽を織り上げるため、各声部の緊密な掛け合いや響きの変化を楽しめるのも本作の大きな魅力です。シンプルな編成の中に豊かな表現と高度な作曲技法が凝縮された、ヴィヴァルディの才能を鮮やかに示す佳品です。

[益子 徹]

ハイドン:

チェロ協奏曲 第2番 ニ長調

Op.101 Hob.VII b Nr2

「交響曲の父」として知られるヨーゼフ・ハイドンは、協奏曲の分野にも優れた作品を残しています。チェロ協奏曲は現在、第1番ハ長調と第2番ニ長調の2曲が広く演奏されており、いずれも楽器の魅力を存分に引き出した名作として親しまれています。

この第2番は1783年に作曲され、第1番に比べてより洗練された古典派様式と華やかな気品が特徴です。第1楽章では明るく堂々とした主題のもと、独奏チェロが伸びやかに活躍します。第2楽章では歌うように美しい旋律が心に安らぎを与え、終楽章では軽快で躍動感あふれるロンドが展開されます。

ハイドンらしい端正な構成の中に、チェロの豊かな表現力と名人芸(ヴィルトゥオジティ)が見事に融合した傑作です。独奏者とオーケストラが織りなす優雅な対話をお楽しみください。

[益子 徹]

山田栄二:

月明かり千地蔵 ～ 弦楽合奏のための

山田氏が作曲した「雪の百地蔵」、「花の五百羅漢」、そしてこの「月明かり千地蔵」の石仏三部作の中で、最後に作曲された曲です。ちょうど40年前の1986年、UPA(宇都宮パーカッションアソシエーション)の第4回定期演奏会の委嘱作品として、マリンバ五重奏のために書かれた作品が原曲です。本団の第13回コンサートのために山田氏に弦楽合奏版として編曲していただき、今回は2回目の演奏となります。

「石仏三部作の中では、変拍子や不協和音を多く用い、遊びの要素もたっぷり含ませた意欲作で、私自身は一番気に入っています。かつて鎌倉の長谷寺に存在したおびただしい数のお地蔵さんを目にした時の感動や驚愕を音楽化したものです。さらにそこから自由な妄想を展開し、あたかもサンサーンスの『死の舞踏』やムソルグスキーの『禿山の一夜』のパロディのような内容になりました。かなりアニメ風な音楽になっていることも否定できません。」と彼自身が解説の中で記しています。

[小松崎 倫子]

モーツァルト:

交響曲 第29番 イ長調 Kv.201(186a)

1774年、18歳のヴォルフガング・アマデウス・モーツァルトによって作曲された作品です。当時のモーツァルトは、幼少期の「神童」としての時代を経て、一人の作曲家として独自の音楽表現を確立し始めていました。本作は、各地への旅行を通じて得た国際的な経験や同時代の交響曲様式を吸収しながら生み出された、初期の最高傑作として高く評価されています。

全4楽章からなり、明るく流麗な旋律と洗練された構成美が特徴です。第1楽章のしなやかに上行する主題に始まり、第2楽章では優雅で温かな歌心が広がります。続くメヌエットでは気品ある舞曲の世界が描かれ、終楽章では若々しいエネルギーに満ちた音楽が華やかに全曲を締めくくります。

室内乐的な親密さを備えた端正な編成の中に、モーツァルトならではの繊細な感性と豊かな表現力が凝縮されています。若き天才の才能が鮮やかに花開いた名曲をお楽しみください。

[益子 徹]



指揮	吉澤真一	
ヴァイオリン	青柳敬子	赤羽根洋子
	奥村琳	川俣洋子
	小松崎倫子	土屋恵子
	中村美和	法橋蒼
	福富恵子	宮田佳代
ヴィオラ	亀山由紀子	川沼文夫
	小岩貴子	中村淑江
チェロ	荒川育子	君島茂
	瀬畑むつみ	八木澤亮
コントラバス	増山一成	
オーボエ	三上澄枝	加藤晴美
ホルン	吉田萌	猪瀬奈緒子
スピネット(チェンバロ)	益子徹	
ステージマネージャー	豊田尚生	

弦楽合奏団 エテルニータ

「エテルニータ」とはイタリア語で「永遠」を意味します。

この弦楽合奏団は2000年3月に行われた宇都宮短期大学百周年記念コンサートで再会し、宇都宮短期大学附属高校音楽科(あるいは宇都宮短期大学音楽科)で学んだ有志で結成されました。

そして末永く活動していこうという願いを込めて「エテルニータ」と名付けたのです。

音楽に限らず、何かを学んでいくことに終わりはありません。私たちは世界中の偉大な作曲家達が残してくれた、数えきれないほどの作品に触れ、それを勉強することで少しずつ前進していこうという意味を持った音楽家の集まりです。



吉澤 真一 / 指揮

宇都宮短期大学附属高校音楽科卒。東京藝術大学器楽科卒。ファゴットを山畑馨、三田平八郎、アルフレド・ヘニゲの各氏に師事。室内楽を森正、吉田雅夫、細野孝興の各氏に師事。田淵進先生より音楽全般に渡る教えるを受ける。第51回日本音楽コンクール入選。NHKFM「午後のリサイタル」、「FMクラシックアワー」、「青少年コンサート」等出演。モスクワ放送交響楽団、ポーランド室内管弦楽団の日本ツアーに参加。「アンサンブル・オーケストラ・エローラ」指揮者兼奏者として参加。山田栄二作曲オペレッタ「不思議の国のアリス」完成版初演指揮する。

宇都宮短期大学非常勤講師。元東京フィルハーモニー交響楽団員。著書「偉大な作曲家より学ぶ18のファゴット練習曲」バンドジャーナル「ワンポイント・レッスン」など吹奏楽関連の執筆多数。「芸能人格付けチェック」出演(笑)。「迷惑改造車を止めてもらう会」会員。

宇都宮短期大学非常勤講師。元東京フィルハーモニー交響楽団員。著書「偉大な作曲家より学ぶ18のファゴット練習曲」バンドジャーナル「ワンポイント・レッスン」など吹奏楽関連の執筆多数。「芸能人格付けチェック」出演(笑)。「迷惑改造車を止めてもらう会」会員。



山田 栄二 / エテルニータ顧問
作曲・編曲

1948年宇都宮市に生まれる。宇都宮短期大学作曲科卒業。

作曲を石黒脩三氏に師事。同短大と同附属高校の講師を務めた後、1984年から作曲、編曲活動に専念。

作品にオペラ「ゆきと鬼んべ」「殺生石物語」「歌法師蓮生」「那須野巻狩り」「小山物語」、

オペレッタ「不思議の国のアリス」、室内楽曲「博物誌」「動物園の情景」「ファール昆虫記」、大正琴と語り手のための「手無し娘」など多数。



益子 徹 / スピネット 及び 曲目解説

栃木県宇都宮市出身。宇都宮短期大学附属高校普通科を経て宇都宮大学教育学部音楽科卒業。その後渡英、英国王立北音楽大学(RNCM)大学院伴奏科ディプロマコース修了。伴奏者、室内楽奏者として国内外で活動のほか、後進の指導にもあたっている。宇都宮短期大学音楽科及び同附属高校音楽科講師、エルベ音楽院ピアノ科講師。



増山 頌子 / チェロ

桐朋女子高等学校音楽科、桐朋学園大学音楽学部卒業。同大学研究生3年次修了。

第7回泉の森ジュニアチェロコンクール金賞。

第12回日本演奏家コンクール第3位。第67

回全日本学生音楽コンクール東京大会入選。

IMA2014音楽賞。ザルツブルク=モーツァルト国際室内楽コンクール2015特別賞。武蔵野市民交響楽団と協奏曲を共演。摂津響

ザール「ゴールドベルク・プロジェクトvol.4」にて田中晶子、豊嶋泰嗣両氏と共演。「高木凜々子と仲間たち」に出演。VIOLA SPACE、

ラ・フォル・ジュルネ、PMF、近江の春びわ湖音楽祭、日本演奏連盟

主催リサイタル、NHK-FM「リサイタル・パッショ」など出演多数。

チェロを5歳より始め毛利伯郎氏に師事。マスタークラスにてピーター・ウィスperlウェイ、ジャン・ワンの各氏の指導を受ける。室内楽を原田幸一郎、東京クワルテット、徳永二男、藤原浜雄の各氏の指導を受ける。サントリー室内楽アカデミー第3期フェロー。

大阪交響楽団ならびにパシフィックフィルハーモニア東京副首席を経て、現在戸塚区民文化センターさくらプラザサポートアーティストを務める傍ら、国内主要オーケストラから客演首席並びに副首席奏者として招聘されている。